

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒が安心して暮らせ、また「希望進路実現・資格取得・高い規範意識の醸成」を達成することで社会に貢献できる人材を育成する学校

2 中期的目標

1 平成 28 年度改編に向けた、幅広い学びのニーズに応える学校づくり（本校の特色をいかしたエンパワメントスクール(ES)創立のための準備）

(1) 他のエンパワメントスクールと明確に差別化するための特色ある取組み

ア 「進学応援型」ES をめざすための準備

* 「グループ学習」を英語授業の 30%（平成 26 年度は約 20%）、数学授業の 20%（平成 26 年度は約 10%）で導入

* タブレット端末を活用した授業（平成 26 年度は教員の約 10%が活用）について、27 年度以降活用する教員を毎年 10%ずつ拡大する。

* 授業改善・学校改革のための視察や官制研修以外の研修参加者数（平成 26 年度は 28 名参加）を 27 年度以降も維持する。

* 27 年度は、難関大学進学（平成 26 年度 3 名）3 名、保育士・看護師・栄養士を標榜する短大進学（平成 26 年度 2 名）4 名、看護師・リハビリ・レントゲン技師・柔道整復師・臨床検査技師等有用な医療系専門学校進学（平成 26 年度 4 名）5 名を達成し 28 年度以降各 1 名ずつ増加させる。

イ 優良企業就職実現のための取組み強化

* 始業前学習（平成 26 年度は 1 年生のみで実施し 90%の生徒が参加）を 27 年度は 2 年生にも拡大し、1 年生・2 年生の参加率を各 90%・70%にする。28 年度には全学年で実施し、29 年度には、1・2・3 年生の参加率 各 95・85・85%をめざす。

* 公開授業（平成 26 年度約 10 講座）を、27 年度以降毎年 50 講座行い、また全教員参加グループワーク型研究協議を年 2 回実施し継続する。

* 生徒対象学校教育自己診断で、「授業がわかりやすい」回答（平成 26 年度は 52%）を 27 年度以降毎年 6%ずつ上昇させ 29 年度には 75%にする。

* 進路未決定卒業生（平成 26 年度は 2.1%）を 27 年度以降維持する。

ウ 「資格取得型」ES をめざすための準備

* 電気工事士資格取得者（平成 26 年度 2 名）4 名をめざし、28 年度以降は毎年 2 名ずつ増加させる。

* 英検 3 級・準 2 級取得生徒数（平成 26 年度 10 名）及び漢検 3 級・準 2 級取得生徒数（平成 26 年度 6 名）を 27 年度以降毎年 20%ずつ増加させ、28 年度には 2 級合格もめざす。

エ エンパワメントスクールプロジェクトチーム(ESPT)を中心とした、他の ES と差別化するための学校全体としての取組み

* 工業系・商業系等も含め資格や検定の合格者（平成 26 年度はのべ 256 名）を 27 年度以降 10%ずつ上昇させる。

(2) 情報・宣伝活動強化による 28 年度入学者選抜志願倍率の上昇

* 校長による中学校進路指導主事訪問（平成 26 年度 39 校）を強化し、27・28 年度は 50 校の進路指導主事または 3 年学年主任を訪問する。

* 中学 2・3 年生徒・保護者・中学校教員・学習塾関係者向け学校説明会（平成 26 年度は生徒・保護者向け 8 回約 650 名、中学校教員・学習塾関係者向け各 1 回合計 50 名参加）を 27 年度は合計 14 回開催し、参加者 2 割増加を図る。

* B5 版 10 ページの広報用写真集（平成 26 年度実績なし）を製作し毎年度更新を図る。

* 入学者選抜志願倍率（27 年度入学者選抜は、前後期合わせた平均倍率 1.79 倍）を平成 28 年度入学者選抜においても維持し継続する。

2 生徒が高い規範意識をもち、安心して充実した高校生活を送ることのできる学校づくり

(1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応

ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導

* 配慮を要する中学 3 年生について、入学前からの連携（平成 26 年度 14 名）を毎年 5 名ずつ増し、29 年度には 30 名とする。

イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導

* 新入生の登校改善状況（平成 26 年度入学生は、中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ生徒のうち 89%が改善）を維持する。

* 停学人数（平成 26 年度は前年度より 7%減少）を 27 年度以降毎年 10%ずつ減少させる。総停学日数（26 年度は前年度より 22%減少）を 27 年度以降毎年 10%ずつ減少させる。

(2) 生徒が充実した高校生活を送るための取組み強化

ウ 学校生活を大切にさせるための取組み強化

* 遅刻回数（平成 26 年度は前年度に比べ 63%減少）を 27 年度は 5%減少させそれを維持する。欠席日数（平成 26 年度は前年度に比べ 31%減）を平成 27 年度は 10%減少させ、それを維持する。

* アルバイト制限（平成 26 年度以前は制限設けず）

エ 部活動の活性化

* 部活動紹介（平成 26 年度は 1 年生のみ対象）を全学年の生徒対象に実施するとともに、新入生全員の体験入部（平成 26 年度は 1 日）を 2 日間実施する。

* 平成 27 年度は耐震工事によりグラウンド面積の 6 割が使用不可となるが、部活動加入率（平成 26 年度 56.6%）を減少させない。

オ 教職員にとっての職場、生徒にとっての生活の場としての学校環境の整備

カ 支援コーディネータを核とした支援委員会とスクールカウンセラー、及びその下部組織としてのサポートチーム（配慮を要する生徒ごとに組織した、担任を中心とした小組織）の強化

* 保護者対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度（平成 26 年度は 84%）を 27 年度以降毎年 2%ずつ上昇させ 29 年度に 90%とする。

* 生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」回答（平成 26 年度は 58%）を 27 年度以降毎年 7%ずつ上昇させ、29 年度に 80%にする。

* 中退率維持（平成 26 年度は 2.7%）

3 地域社会の一員として、地域に見守られ地域に貢献できる学校づくり

(1) 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり

ア 地域の諸機関・事業所との交流・連携

イ 文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。

* 文化祭・体育祭来場者数（平成 26 年度は 518 名）を平成 27 年度は 600 名とし、毎年 10%ずつ増加させる。

ウ 学校からの発信強化

*HP等の更新等合計回数(平成26年度は合計520回)を550回とし、それを維持する。

(2) 地域に貢献できる学校づくり

エ ボランティア活動の継続

*清掃奉仕等の地域ボランティア活動参加者のべ200名(26年度数値不明)とし、28年度以降維持する。

オ 地域に向けた「成城カルチャー講座」継続等

*受講人数(平成26年度は13名受講)を27年度は20名とし、それを維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年※月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(1) 学校生活全般について 昨年度検討したように「楽しい」を「充実している」に変更し、「学校が充実している」と回答した生徒は76.7%(昨年度「学校生活楽しい」は65.1%)、「子どもは学校生活が充実している」と回答した保護者は81.1%(昨年度「学校生活が楽しいと言っている」69.0%)。学校生活に対し進路など目的意識を持ち登校しているかを確認するために、「成城高校に入学して良かった」と回答した生徒は63.4%(昨年度57.7%)、「成城高校に入学させて良かったと思う」と回答した保護者は85.8%(昨年度88.9%)。学校経営計画では生徒の満足度を65.0%、保護者の満足度を85.8%とすることを目標としておりほぼ達成することができた。今後も学習指導、進路指導、クラブ活動の充実など生徒が一層有意義な学校生活を送ることができるよう校内での検討を進める。</p> <p>(2) 教職員の保護者対応 「学校は保護者の相談に応じてくれている」と回答した保護者は78.9%(昨年度66.7%)。今後も保護者との連絡を密にし、さらなる連携を図れる体制を促進する。</p> <p>(3) 学習指導 「授業が充実している」58.2%(昨年度類似項目「授業にわかりやすい」51.8%)と、生徒の回答では学習に対する意欲の向上が少しだけみられた。学校経営計画で授業に対する満足度を昨年度より6%の向上をめざすとの目標を掲げ達成することができた。また、保護者からは「子どもさんは授業が充実していると言っている」68.2%(昨年度類似項目「子どもさんは授業がわかりやすいと言っている」36.2%)との回答が得られ、授業改善の一環として校内研修の機会を増やすなど授業力向上に向けた取り組みを強化した成果があらわれた。今後もICTの活用や研修を充実させ授業の充実をめざす。</p> <p>(4) 進路指導 「自分の将来について考える機会がある」との設問に、80.2%(昨年度73.2%)の生徒が肯定的に回答しており、キャリア形成に一定の成果は出ている。また、進路指導には保護者も83.5%が「適切な指導を行っている」と答えており(昨年度73.0%)、さらなる向上をめざし現在進めている進路指導体制の充実を急ぐ。</p> <p>(5) 生徒指導等 「社会のルールについて学ぶ機会がある」と回答した生徒は、75.4%(昨年度69.1%)であり学校での基本的な社会ルールを守る指導が生徒にも浸透してきていることがうかがえる。「学校生活についての先生の指導は納得できる」と回答した生徒は、46.1%(昨年度38.9%)と生徒指導について、本校の指導方針に賛同している生徒が増つつあることが読み取ることができ、今後も生徒への指導の徹底を行うとともに、指導の意義も伝える機会を増やすことで対応していきたい。</p> <p>学校の「安心して高校生活を送れる学校づくり」の方針に共感できますかという設問に対して、保護者は84.8%(昨年度73.6%)が肯定的意見であった。確実に本校の取り組みは成果をあげている。今後、生徒指導ルールに緩急をつけるが、基本方針は変更しない。</p> <p>(6) 友人関係 「学校に心を開いて話せる友達がいる」と回答した生徒は76.6%(昨年度79.3%)で、昨年度より少し低下した。今後もさらに多くの生徒が友人関係を作ることができるよう、ピア・サポート体制を強化する。</p>	<p>第1回(7/21) ○平成26年度「学校経営計画・評価」及び平成27年度「学校経営計画」 ・学力向上を最も保護者は願っている。一層の努力を要する。 ・家庭と連携できる学校づくりをより進めて欲しい。 ・生徒指導等 生徒の本音をペーパー化して欲しい。 生活指導が厳しいため、生徒の自由度が少ないのではない。 ブラックアルバイトについての指導を強化した方がよい。 ・仲間作りをより一層進めて欲しい。 ・入学して良かったと思っていない生徒もいると思うが、その原因は何かさぐってみることも検討すべき ○エンパワメントスクール(ES)改編に向けた成城高校のあり方について ・来年度からモジュール授業を実施することによる先生方の加重負担回避方策を。 ・成城高校のネットの書込みについて、批判がないということは成城高校の知名度が低いということでもある。 ・親としての願いは、中退して欲しくない。だから、本校の中退が少ないという強みをもっと前面に出すとよい。 ・就職する際に文章力が必要となるので、エンパワメントタイムなどを活用して養うべきだ。 ・性同一障がい等について、例えば女生徒のズボン写真をHPに掲載するなどの配慮があった方がよい。 ・女子はズボンが制服にない全日制の高校が多いため、私服でよいという点から定時制を選ぶ生徒もいる。 ・世間は本校が総合学科になっていることすら知らない。 ・いじめ件数0件について、いじめに対する認知が本校は低いのではと誤解される可能性もあり、扱いには慎重さが必要</p> <p>第2回(10/20) ○学校ホームページ(HP)の活用 ・中学生とその保護者に向けてESにおけるQ&Aや成城高校の魅力について掲載するなど活用してみてもどうか。 ・保護者が興味があるのは子どもたちの日々の状況であるので、HPの日々の更新をもっと頻繁にすることで、HPへのアクセス回数が向上し知名度が上がる。 ・校内の清掃がよくできているが、校内の美化をもっと徹底して欲しい。特に正門から正面玄関付近は学校の顔であるので徹底的に美化すべき。 ○写真藝術部の展示について ・正門横の写真展示については大変良いと思うが、生徒のコメントや作品についての情報を付けければ人が足を止めて見てくれる。 ○生徒会について ・生徒会の自主性はどうか?もっと生徒に任せてみるべきではないか。 ・生徒会役員を選出方法は?自主性を高める選出方法を工夫するとよい。 ・市長選その他一般選挙のように、実際の選挙箱を借りてきて行くと生徒の選挙への意識も高まりよい勉強になると思う。 ○進学・就職へのサポートについて ・求人が成城高校にはたくさん来ていると思うが、希望先を決めるためのサポートをもっと充実させるべき。就職への各先生のサポート体制強化が必要 ・進路指導室前の資料についても見せ方をもう少し改善した方がよい。 ・外部講師等をもっと頻度高く招いて外部との関わりを多くすべきだ。 ・生徒たちにとっては初めての就職活動なので、もう少し企業の選び方などを教えてやって欲しい。教員からの声かけをもう少し増やして欲しい。 ○その他 ・教員が校内で外部の人に会った時には、挨拶するようにして強く指導すべき。 ・成城高校へ電話した時の電話対応はとてよく、この状態を維持して欲しい。 ・授業中の生徒の居眠りをもっと改善すべき。先生ごとに生徒の居眠りについての目標の数値をかかげ達成度を報告しあうなど対策を考えるとよい。</p>

(7)情報発信

「学校から教育活動の内容について十分に情報発信されている」と回答している保護者は76.6%（昨年度63.2%）で向上しているが、ホームページ、学校新聞「成城」、学級通信等の充実を進めることで情報発信に努める。

第3回（3/15）

○生徒指導について

- ・停学は多くの課題の提出を求められるが多く、停学指導を受けた生徒が「もう二度と停学にはならないようにする。停学のしんどさを後輩に伝える。」と言っていた。
- ・停学時の提出課題は漢字ばかりのため集中が続かない。工夫が必要。
- ・生徒が教員に対して、友だちのように場面を見た。きちんとした言葉づかいを指導してもらいたい。また、教員が生徒を（姓でなく）名前やニックネームで呼ぶことは、姓で呼ばれる生徒とのバランスを考え、やめた方がよい。

○情報管理について

- ・遅刻・欠席届を生徒手帳に書かせるようにすると、保護者が書いたものが生徒の手元に残る。
- ・中学で誤った生徒指導データが使われ問題になっているが、生徒指導の情報は電子データより紙媒体の方が安心。
- ・相談内容を記録して申し伝えていくカルテのようなもの等を工夫してほしい。

○授業について

- ・授業を見学したとき、集中していない生徒も一部にあり残念だった。
- ・授業内容を説明する時にタイムリーな話題のテレビ番組や最新の情報をICTを活用して見せるなど工夫願いたい。
- ・小学校での指導経験から、スクリーンにパソコンでスライドを映し出すよりも、実物や模型、手で紙に描いた絵の方が反応が良い。パソコンで作ったものはあまり見なくなってしまったようだ。

○学校の評価について

- ・成城高校が教育委員会から表彰され嬉しい。特に支援の取り組みが評価されたことが嬉しい。
- ・学校教育自己診断で保護者が満足していない部分は何か、検討が必要
- ・先日成城高校を卒業した生徒は、家庭であまり話をせず、生徒指導や部活動の上での悩みなど本人と担任や顧問に任せていたそうである。本人に「高校生活どうやった？」って聞いたところ「楽しかった。」と言ったので安心したということであった。

○広報について・入試について

- ・一度もったイメージはなかなか元には戻らない。近隣でも昔の成城高校のイメージをもっている人がいる。荒れた学校と思いきや成城を訪問したとき、廊下がきれいでびっくりした。
- ・他校は学力面の成果や生徒会等で活躍している生徒の文章をパンフレットに掲載しているが、成城は不登校経験があった生徒や保護者の声をパンフレット等にのせてはどうだろうか。
- ・倍率が高かったため、入学を希望し学校説明会に何度も参加した人でも不合格だった方がいる。

○登校改善について

- ・小学校から不登校であった生徒、また中学で不登校になった経験をもつ生徒の保護者から、小中学校では放置され連絡もなかったと聞いたことがある。
- ・成城高校の登校改善がすばらしい。成城は面倒見がよいと評判だ。
- ・生徒指導が厳しく何かあればすぐに対応する。規則が厳しいことで守ってもらえると思ひ入学する。
- ・おとなしい生徒がグループを作り安心している。行事等は友達同士でも連絡をとっているようだ。

○小中学校時代の経験から

- ・学校の権威が失墜し、小中学校では学校側のいうことを聞かない保護者がいるので、ちゃんと相談しても、取り合ってくれなかったことがあった。
- ・教員の知らないところで、いじめとは把握できないような小さなことの積み重ねがたまっていき、それがある量を超えたとき、大きなダメージを受ける。
- ・中学校時にいじめにあったとき、学校の対応に不信感をもった。

○その他

- ・保健室や図書室の利用を活性化する方策を考えてはどうか。
- ・学習支援員を一層機能させる方策が必要。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 平成28年度改編に向けた、幅広い学びのニーズに応える学校づくり（本校の特色をいかしたエンパワメントスクール（ES）創立のための準備）	<p>(1)他のエンパワメントスクールと明確に差別化するための特色ある取組み</p> <p>ア 「進学応援型」ESをめざすための準備</p> <p>イ 優良企業就職実現のための取組み強化</p> <p>ウ 「資格取得型」ESをめざすための準備</p>	<p>(1)</p> <p>ア・英語と数学での「グループ学習」強化と英語教育の抜本的改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末等 ICT 機器を活用した授業の強化 ・ICT 等先進校視察・校外研修への積極的な参加推進 ・受験講習強化 ・大学、有用な資格取得を標榜する短大、有用な医療系専門学校への進学強化 <p>イ 優良企業就職実現のための取組み強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部主導型の就職指導強化 ・授業改善 ・1年生「産業社会と人間」を活用した数学「学び直し」学習及び2年生「総合的な学習の時間」での国語の語彙力強化の取組みの継続実施と28年度ES1年生モジュール授業への発展 ・始業前学習（8:25 から10分間）の充実・拡大 ・「成城みらいプロジェクト」による授業改革の取組み ・「新人育成プロジェクト」による経験の少ない教員の教員力向上 <p>ウ・資格取得の強化</p>	<p>ア・「グループ学習」を英語授業の30%（平成26年度約20%）、数学授業の20%（平成26年度は10%）で導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した授業の実施教員率20%（平成26年度10%） ・授業改善や学校改革のための視察及び官制研修以外の研修参加者数維持（平成26年度28名参加） ・難関大学進学3名（平成26年度3名）、保育士・看護師・栄養士をめざす短大進学4名（平成26年度2名）、看護師・リハビリ・レントゲン技師・柔道整復師・臨床検査技師等有用な医療系専門学校進学5名（平成26年度4名） <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業50講座で実施（平成26年度約10講座）、また全教員参加グループワーク型研究協議年2回実施 ・始業前学習を2年生にも拡大、1年生・2年生の参加率を各90%・70%にする（平成26年は1年生のみで実施、90%の生徒が参加）。 ・生徒対象学校教育自己診断での「授業がわかりやすい」肯定率58%（平成26年度52%） ・進路未決定卒業生維持（平成26年度は2.1%） <p>ウ・電気工事士合格4名（平成26年度2名）、英検3級・準2級合格12名（平成26年度10名）、漢検3級・準2級合格8名（平成26年度6名）、工業系・商業系等も含めた資格や検定合格者のべ225名（平成26年度はのべ256名）</p>	<p>ア・「グループ学習」を英語授業の35%（◎）、数学授業の20%で実施（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した授業の実施教員率15%（△）、タブレット端末の府からの措置が当初予定より遅れたための低実施率であるため、28年度1月より精力的に活用を開始している。 ・授業改善や学校改革のための視察及び官制研修以外の研修参加者数45名（◎） ・難関大学進学0名（△）、保育士・看護師・栄養士をめざす短大への進学4名（○）、看護師・リハビリ・レントゲン技師・柔道整復師・臨床検査技師等有用な医療系専門学校進学4名（○）、数学科教員が中核となって難関大学進学をめざすよう生徒への強い指導を9月から開始、今年度は時間不足であったが、来年度は大幅な改革が見込まれている。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業58講座で実施（◎）、また全教員参加グループワーク型研究協議年3回実施（◎） ・始業前学習を全学年に拡大、1年生・2年生・3年生の参加率各95%・85%・50%（◎） ・生徒対象学校教育自己診断での「授業が充実している」肯定率58.2%（○） ・進路未決定卒業生2%（○） <p>ウ・電気工事士合格5名（◎）、英検3級・準2級合格21名（◎）、漢検3級・準2級合格11名（◎）、工業系・商業系等も含めた資格や検定合格者のべ339名（◎）</p>

府立成城高等学校

	(2)情報・宣伝活動強化による28年度入学者選抜志願倍率の上昇	(2) ・校長が先頭に立った広報活動 ・学校説明会・中学校教員と塾関係向け説明会充実 ・広報用写真集製作	(2) ・校長による中学校進路指導主事等訪問50校(平成26年度39校) ・中学2・3年生徒・保護者・中学校教員・学習塾関係者向け学校説明会合計14回開催、参加者840名(平成26年度は、生徒・保護者向け8回約650名参加見込、中学校教員・学習塾関係者向け各1回合計50名参加) ・B5版10ページの広報用写真集の製作(平成26年度実績なし) ・入学者選抜志願倍率1.79倍維持(27年度入学者選抜は、前後期合わせた平均倍率1.79倍)	(2) ・校長による中学校進路指導主事等訪問39校(△)、各区民センターや中学校等々で行われる、中学校教員向け説明会に12回招聘され校長がプレゼンを行ったため、校長による中学校指導主事訪問の必要性が低下したが、来年度は招聘が減少すると予測され訪問回数を増やすことが重要だと考える。 ・中学2・3年生徒・保護者・中学校教員・学習塾関係者向け学校説明会合計14回開催(○)、参加者1880名(◎) ・B5版22ページの広報用写真集の製作(◎) ・入学者選抜志願倍率2.17倍見込み(◎)
2 生徒が高い規範意識をもち、安心して充実した高校生活を送ることのできる学校づくり	(1)いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応 ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導 イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導 (2) 生徒が充実した高校生活を送るための取り組み強化 ウ 学校生活を大切にさせるための取り組み強化 エ 部活動の活性化 オ 教職員にとっての職場、生徒にとっての生活の場としての学校環境の整備	(1) ア・配慮を要する中学3年生に関する中学校との連携充実 イ・不登校・いじめられ経験をもつ生徒が登校改善できるよう図る。 ・生徒の実態に即し、生徒指導内規とその運用についての改善を図る。 (2) ウ・遅刻・欠席減に向けた組織的な取り組みの継続 ・アルバイト制限(平成26年度以前は制限設けず) エ・入部を促す取り組みの継続と強化 オ・職場としての職員室の整理整頓・職場としての職員室の整理整頓(3S:整理整頓清掃)、見通しのよい職員室(机上の本立て2段積み自粛) ・「安全な工場」のための整理整頓強化 ・校内美化強化 ・日常の指導や会話、校内放送などでの生徒への適切な対応強化 ・中退者を増やさない姿勢の継続	(1) ア・配慮を要する中学3年生について、入学前からの連携19名(平成26年度14名) イ・新入生の登校改善89%維持(平成26年度入学生は、中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ生徒のうち89%が改善) ・停学人数10%減(平成26年度は前年度より7%減)、総停学日数10%減(26年度は前年度に比べ22%減) (2) ウ・遅刻回数5%減(平成26年度は前年度に比べ63%減)、欠席日数10%減(平成26年度は前年度に比べ31%減) エ・部活動紹介を全学年の生徒対象に実施(平成26年度は1年生のみに実施)、新入生全員の体験入部を2日間実施(平成26年度は1日のみ) ・平成27年度は耐震工事によりグラウンド面積の6割が使用不可となるが、部活動加入率56.6%維持(平成25年度56.6%) オ 評価指標なし ・保護者対象学校教育自己診断で学校に対する満足度86%をめざす(平成26年度は84%) ・生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」65%(平成26年度は58%) ・中退率維持(平成26年度は2.7%)	(1) ア・配慮を要する中学3年生について、入学前からの連携23名(◎) イ・新入生の登校改善100%(◎) ・停学人数22%減(◎)、総停学日数29%減(◎) (2) ウ・遅刻回数22%減(◎)、欠席日数32%減(◎) エ・部活動紹介を全学年の生徒対象に実施(○)、新入生全員の体験入部を3日間実施(◎) ・部活動加入率58.9%(◎) オ 評価指標なし ・保護者対象学校教育自己診断で学校に対する満足度85.8%(○) ・生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」63.4%(△)、厳格な校則が上級生の学校満足度を低下させていると思われる。学校説明会への参加者が毎年増加しており、校則の厳格さを求めて入学する生徒が増加していく傾向にある。校則に緩急はつけるが基本方針は変更しない。 ・中退率0.7%(平成26年度は2.7%)(◎)

府立成城高等学校

<p>3 地域社会の一員として、地域に見守られ地域に貢献できる学校づくり</p>	<p>(1) 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり ア 地域の諸機関・事業所との交流・連携 イ 文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。 ウ 学校からの発信強化</p> <p>(2) 地域に貢献できる学校づくり エ ボランティア活動の継続 オ 地域に向けた「成城カルチャー講座」継続等</p>	<p>(1) ア・地域の諸機関・事業所との交流・連携 ・保育園・小学校・中学校・高齢者福祉施設・城東区役所・警察署との交流・連携の継続と強化</p> <p>イ・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。</p> <p>ウ・学校からの発信強化 ・校門横木製掲示板、「成城高校電子掲示板」、成城高校メールマガジン、ホームページ更新、地元自治会掲示板、地域の回覧板回数活用充実</p> <p>(2) エ・ボランティア活動の継続 ・硬式野球部・写真芸術部・バレーボール部等による清掃奉仕等の地域ボランティア活動の継続 オ・「成城カルチャー講座」の継続</p>	<p>(1) ア 評価指標なし</p> <p>イ・文化祭・体育祭来場者数 600 名をめざす(平成 25 年度は 518 名)。</p> <p>ウ・更新等合計回数 550 回をめざす(平成 26 年度は合計約 520 回)。</p> <p>(2) エ・清掃奉仕等の地域ボランティア活動参加者のべ 200 名(26 年度数値不明)</p> <p>オ・受講人数 20 名をめざす(平成 26 年度は 13 名受講)。</p>	<p>(1) ア 評価指標なし</p> <p>イ・文化祭・体育祭来場者数 814 名(◎)</p> <p>ウ・更新等合計回数 680 回(◎)</p> <p>(2) エ・清掃奉仕等の地域ボランティア活動参加者のべ 530 名(◎)</p> <p>オ・受講人数 0 名(実施せず)(△)、ES 準備と写真芸術部顧問の多忙化のため実施できず。保育園児 40 名の卒業作品制作指導を 3 日間本校で実施できたことから、来年度はカルチャー講座の形態変更を検討</p>
--	---	--	--	---